



提言書



ここ数年コロナ禍を契機に、あらゆるところで慣例的事業が廃止あるいは縮小しました。PTA活動についても例外ではなく、戦後復興期から高度成長期に象徴される人口増加に支えられた好循環期を通じて機能してきた事業が、時代の変化に対応できないまま現在に至ってきております。

また、参加したい気持ちはあっても、仕事の都合や家庭の事情など、なかなか時間が取れないという人たちもいます。二世帯同居、多子家族が当たり前だったころの体制から、少子化、核家族化、夫婦共働きが主流となった現代とでは、人びとの社会参加の在り方も変化して当然であり、そうした環境変化に合わせてPTAの在り方も変化していかなければなりません。

具体的には、さまざまな背景をもつ家庭に応じた「多様な参加形態」を検討し、多くの保護者、教職員の人たちが無理なく参加できる持続可能な体制整備が急がれます。

また、会員同士の親睦を深めつつも、個人の尊厳をないがしろにすることのないよう、十分配慮していく必要があります。

加えて、本来社会教育団体が担うべき役割を見据えて、会員それぞれが我が子の教育について不断に研鑽を積む必要があります。

現代的課題を乗り越えていくために、高崎市PTA連合会は、84校の連合団体であることの本旨に立ち返り、民主的運営における合意形成機能、様々知見を集めそして共有するシンクタンク機能などを発揮し、高崎市の明るく参加意欲にあふれた社会教育行政に貢献できるような活動・事業を展開していくことが必要だと考えています。

高崎市PTA連合会は、子どもたちの明るい未来を築くためのゆたかな教育環境醸成につながるPTA活動を目指し、市内84校のPTA会員と共に、今後も活動していくことを宣言して、明るい未来に向けての提言といたします。



第60回高崎市PTA連合会研究大会
実行委員長 伊藤昭博

高崎市PTA連合会 会長 田邊郁也

私たち高崎市PTA連合会は、市内84それぞれのPTA組織の連合体です。そのすべての事業は「子どもたちが正しく健やかに育っていくゆたかな教育環境を醸成するために」企画、運営されています。

本来「PTA」は、教師と保護者とで互いに責任を分かち合いつつも、子どもの将来、つまりは地域や国の未来について対等に話し合う場として用意された仕組みです。個人の恣意的な思惑や強く偏った感情によって、本来あるべき姿がゆがめられないよう「民主的な運営」を通じてのみ、子どもたちの教育環境が整っていくことができるように用意された仕組みです。

いま、少子化や長引く経済低迷などの影響で学校でも家庭でも大変な負担感に苛まれているようです。PTAが本来果たすべき民主的な運営による役割も長らくあまり機能していないところも散見されます。そうしたときこそ「P」と「T」がよく話し合ってより良い未来に向かっての解決の糸口を見つけ出す機会をたくさん作らなければなりません。私たち大人たちがそうした「使命感」をもつことが「負担感」を克服する唯一の処方箋だと考えています。

「Pポジティブに」「Tとにかく」「Aあつまろう」、今大会のキャッチフレーズのように明るくいつでも集えるPTAづくりに、これからも貢献していける連合体でありたいと願っています。

ぜひ、会場でなにかひとつ「Pポジティブ」な何かを持ち帰っていただければと思います。

第60回高崎市PTA連合会研究大会 実行委員長 伊藤昭博

本日は、第60回高崎市PTA連合会研究大会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。今年の研究大会テーマは『84の可能性～PTAと地域がつながる～』です。

高崎市内には84の小中支援学校があります。異なる環境下でそれぞれが工夫し、子どもたちのより良い教育環境のためにPTA活動を行っていることと思います。この84校の小中支援学校PTAをつないでいるのが、高崎市PTA連合会です。活動エリアの異なる単位PTA会員が交流し情報交換することは、それぞれのPTA活動への大きなヒントになると思います。また、その情報は今後活かせる大切な共有財産となります。

この研究大会に向けて、活動エリアの異なるPTA会員が情報交換を行い、話し合ってきました。本日はその内容を発表させていただきます。少し堅苦しいイメージもあるPTAですが、日本の伝統芸能である『落語』に触れながら、笑いある楽しい雰囲気の中で、皆様と情報共有し、考えを深めたいと思います。

多様化する時代変化に対応した子どもたちの明るい教育環境につながるPTA活動を目指し、高崎市内84校の小中支援学校PTAネットワークの活用と可能性を考え、今後のPTA活動にお役立ていただきたいと思います。